

気候変動会議 “One Planet Summit” パリで開催

◆「パリ協定」採択2周年、実現に向けての資金対策会議がパリで開催

2017年12月12日、地球温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」採択2周年を機に、協定推進に向けた首脳級会議「ワン・プラネット・サミット」がパリ近郊で開催され、首脳級59名を含むハイレベル125名が参加した。対策資金の確保に向けた官民協力が主要テーマだった。トランプ大統領がパリ協定脱退を宣言しアメリカが消極的になるなか、フランスのマクロン大統領の呼び掛けで、フランスと国連、世界銀行が共催し、欧州が協定推進をけん引する格好となった。

「ワン・プラネット・サミット」開催にあわせて欧州委員会は12月12日、クリーンな経済と公正な社会を目指す「地球のための行動計画」を公表した。行動イニシアチブとしては、以下の10項目を挙げている。

欧州委員会は、エネルギーと気候に関する法令を単に強化するだけでなく、エネルギー効率や再生可能エネルギーなどへの投資の促進、雇用創出、産業の技術革新を進める施策を目指している。

- 1) 金融部門の気候保護への貢献促進
- 2) EUの対外投資計画 -アフリカとEU近隣地域への機会-
- 3) 欧州諸都市のための投資活用支援
- 4) 域内島嶼部のクリーンエネルギー
- 5) 石炭消費や炭素排出が多い地域への構造的支援
- 6) 欧州の若者の気候保護行動
- 7) スマート・ビルディングへのスマート投資
- 8) 建物のエネルギー性能向上への投資に関するEUルールブック
- 9) クリーン産業技術への投資
- 10) クリーンでコネクテッドで、競争力のあるモビリティ

◆金融機関や投資家からは企業へ温暖化ガスの削減を促す動き

「ワン・プラネット・サミット」開催に合わせ、会議の共催者である世界銀行は12月12日、19年以降、石油・ガス田の探査、開発事業への資金提供を原則停止すると発表した。一方で、野心的なCO₂削減目標を掲げた国への融資は増加させる予定だ。また、投資したプロジェクトからのCO₂排出量の報告を、まずはCO₂排出量の多いエネルギー分野などから18年に開始することも発表した。

また、国連環境計画（UNEP）も会議に合わせて、「持続可能性のための金融センター（financial centres for sustainability）」ネットワークに、フランクフルト、ジュネーブ、深圳、トロント、チューリッヒの5都市が新たに加入したと発表した。環境配慮型の持続可能な金融の拡大を加速するため、17年9月にカサブランカで創立され、ロンドン、パリ、ミラノ、ルクセンブルク、ダブリン、ストックホルム、香港、上海、カタール、アスタナ、カサブランカが参加を表明していた。具体的には、「戦略アクションの促進」「知見の共有」「グリーン金融商品の開発での協力」「都市、地域、国、国際行政機関との協働」「国際ネットワークの開始」の5点で合意しており、18年4月にはミラノで総会が予定されている。「金融センター」には、パリ協定や持続可能な開発目標（SDGs）実施のための資金動員を推進する役割を担うことが期待されている。

さらに機関投資家からは、企業を名指しして温暖化ガスの具体的な削減要求もあった。仏アクサ系や独アリアンツ系、三井住友信託銀行など225の機関投資家は、トヨタ、BP、ロイヤル・ダッチ・シェル、BASF、日立、新日鐵住金など世界の100社に対して、原料購入から納品までの温暖化ガスの削減を求めた。

◆ダノン、SAPなど大手企業8社はCO₂削減と貧困層の生活改善目指す基金創設

一方で、企業の中には他社と連携する動きもみられた。12月11日、会議の開催に合わせて、欧州の大手企業8社、ダノン、ミシュラン、SAP、エルメス、シュナイダーエレクトリック、クレディ・アグリコル（金融）、フィルメニッヒ（香料）、ヴォヤジャー・デュ・モンド（旅行）が、温室効果ガスの排出削減と主に途上国の人々の生活改善のためのプロジェクトに投資する「Livelihoods Carbon Fund（生活炭素基金）」を立ち上げることを発表した。18年は目標投資額を1億ユーロとし、貧しい人々の生活を支える生態系の回復や、農林複合事業、エネルギー分野のプロジェクトへの投資を開始する。これにより200万人の生活を改善し、CO₂排出を20年間で最大2,500万トン削減するという。同基金の発動は今回が2回目で、1回目は11年に開始されている（プロジェクト期間は10～20年）。この基金は、08年にダノンが設立し、09年にNGOなどと共にセネガルでマングローブの植栽を始めた「ダノン自然基金」から発展したものだ。1企業の取組みが、賛同する各社との共同取組みへと広がった好例といえよう。 【赤山英子】